

頁	該当箇所	正誤内容	
		誤	正
4	表 1・3, 温度	17~28℃ (冷房時は——)	18~28℃ (冷房時は——)
	表 1・3, 一酸化炭素の含有率	0.001% (10 ppm) 以下	0.0006% (6 ppm) 以下
20	6 行目	$h = \frac{aV_0}{g} = \frac{V_0}{g} \sqrt{K/\rho(1 + KD/ES)}$	$h = \frac{aV_0}{g} = \frac{V_0}{g} \sqrt{K/\rho(1 + KD/ES)}$
41	下から 9 行目	平坦たん特性	平坦特性
49	下から 5 行目	(5~8 倍)	(5~7 倍)
52	下から 1 行目	使用電圧が高いほど低い値とする.	使用電圧が高いほど 高い 値とする.
60	12 行目	セメントの重量に対する水の重量	セメントの 質量 に対する水の 質量
80	図 4・4	$h_1 h_2 h_3 \quad x_1 x_2 x_3 \quad t_1 t_2 t_3$	$h_1 h_3 h_2 \quad x_1 x_3 x_2 \quad t_1 t_3 t_2$
82	下から 1 行目の下	右の 2 行を挿入	x_4 : 加熱コイル出口空気の絶対湿度 [kg/kg (DA)] x_5 : 室内空気の絶対湿度 [kg/kg (DA)]
106	下から 4 行目	給気口より高い位置 (天井から 80 cm 以内)	(天井から 80 cm 以内) を削除
	下から 1 行目	(建設省告示第 182 号)	(建設省告示第 1826 号)
	図 4・9	<p>“80 cm 以内”を削除, “h(給気口の中心から——)” “L(排気口の中心から——)”を追記, “h(天井高さ)” を“H(天井高さ)”に</p> <p>図 4・9 自然換気設備の構造</p>	<p>図 4・9 自然換気設備の構造</p>
107	1 行目	$A_v = KQ/3 600\sqrt{(3 + 5n + 0.2L)/h}$	$A_v = 40KQ/3 600\sqrt{(3 + 5n + 0.2L)/h}$
112	1 行目	排煙口のサイズは, 吸込み風速 10 m/s 以下	排煙口の 吸込み風速は , 10 m/s 以下
126	下から 11 行目	入孔	人孔
129	下から 1 行目	⑤ まずは, 公道と民有地の境界付近の公道側に設置する.	⑤ すべて削除
134	汚水ます断面図	<p>右図のように修正</p> <p>断面図</p>	<p>断面図</p>
156	表 5・5	手洗器 30	手洗器 25

159	図 5・19	<p>○を削除</p> <p>図 5・19 排水・通気系統図</p>	<p>図 5・19 排水・通気系統図</p>
	図 5・20	<p>右図のように修正</p> <p>図 5・20 ループ通気管の接続法</p>	<p>図 5・20 ループ通気管の接続法</p>
160	図 5・21	<p>右図のように修正</p> <p>図 5・21 逃し通気管の取り方</p>	<p>図 5・21 逃し通気管の取り方</p>
	12 行目	排水横枝管などに接続するもの	通気立管などに接続するもの
180	図 5・27	小形合併処理浄化槽（分離接触ばっ気）	小形合併処理浄化槽（嫌気ろ床接触ばっ気）
		A：沈殿分離槽	A：嫌気ろ床槽
181	4 行目	想定利用者数に定数を乗じて	総便器数（個）に定数 16 を乗じて
220	7 行目	受注者は、	発注者は、
222	表 7・1「記号」の欄 6 行目	SGP-VD	SGP-VA SGP-VD
234	表 8・2, 提出先の 3 行目	都道府県知事又は市町村長	市町村長, 都道府県知事又は総務大臣
240	図 8・3	→③→	→⑧→
	下から 9 行目	①→③の順に	①→③→④の順に
	図 8・5	<p>イベント④の最早開始時刻を(13)に修正 最早完了時刻 13 を色文字で追加</p> <p>図 8・5</p>	<p>図 8・5</p>

	13 行目	二つの矢線の日数のどちらか小さいほう	二つの矢線の日数で計算してどちらか小さいほう
241	図 8・7	<p>イベント④の最遅完了時刻を 13 に修正 イベント④の最早開始時刻を (13) に修正 イベント②の最遅開始時刻 5 を色文字で追加</p> <p>図 8・7</p>	<p>図 8・7</p>
	下から 6 行目	最遅開始時刻は、 $17 - 8$ 日 (作業日数) = 9 日となる。	最遅開始時刻は、 $13 - 8$ 日 (作業日数) = 5 日となる。
242	図 8・8	<p>(3) : イベント③の最早開始時刻 (ES) 破線を正しい位置へ移動</p> <p>$FF = 6 - (3 + 3) = 0$</p> <p>(6) : イベント④の最早開始時刻 (ES) (3) : イベント③の最早開始時刻 (ES) 3 : 作業 C の所要日数</p> <p>図 8・8 フリーフロートの計算例</p>	<p>(3) : イベント②の最早開始時刻 (ES)</p> <p>$FF = 6 - (3 + 3) = 0$</p> <p>(6) : イベント④の最早開始時刻 (ES) (3) : イベント②の最早開始時刻 (ES) 3 : 作業 C の所要日数</p> <p>図 8・8 フリーフロートの計算例</p>
	図 8・9	③ →	② →
	図 8・10	(3) : イベント③の最早開始時刻 (ES)	(3) : イベント②の最早開始時刻 (ES)
244	図 A イベント①の 最遅完了時刻	8	0
249	図 3	<p>破線を正しい位置へ移動</p> <p>作業 A の FF</p> <p>作業 C の FF</p> <p>図 3</p>	<p>作業 A の FF</p> <p>作業 C の FF</p> <p>図 3</p>
264	マスター Point	作業床の高さが 10 m 以上の高所作業車——技能講習修了者 作業床の高さが 10 m 以上の高所作業車——技能講習修了者	作業床の高さが 10 m 以上の高所作業車——技能講習修了者
268	10 行目	許容引抜き力の大きい方から L 形, LA 形, J 形, JA 形, ヘッド付となる。	許容引抜き力の 小さい 方から L 形, LA 形, J 形, JA 形, ヘッド付となる。
270	下から 8 行目	① 運転時における全体質量の 3 倍以上の長期荷重に耐えられる鉄筋コンクリート基礎上に据付ける。	① 据付けは、基礎の上に引き込み、中心及び基礎ボルトの位置を確かめ、くさびで水平、垂直を調整し、基礎ボルトを締め付ける。
276	下から 2 行目	最大拡散半径が重ならないように	最小 拡散半径が重ならないように
278	下から 7-6 行目 目②	保温筒, ポリエチレンフィルム, 鉄線, アルミガラスクロス の順に施工する	保温筒, 鉄線, ポリエチレンフィルム , アルミガラスクロス の順に施工する
303	下から 6 行目	振動の特定建設作業実施届出書は市町村長に提出	騒音規制法 の特定建設作業実施届出書は市町村長に提出
312	問題③ 解説図	⑤最適後期	⑤最適 工期
331	問題② (2)	3 年間保存しなければならない。	5 年間保存しなければならない。
332	問題③	「労働基準法」上, 誤っているものはどれか。	「労働基準法」上, 正しいもの はどれか。
338	図 9・6	<p>“防火区画 (壁・床)” の幅を狭く</p> <p>防火区画の貫通</p> <p>不燃材料での被覆</p> <p>硬質塩化ビニル管等の貫通材</p> <p>モルタル等による穴埋</p> <p>防火区画 (壁・床)</p> <p>図 9・6 配管の貫通</p>	<p>防火区画の貫通</p> <p>不燃材料での被覆</p> <p>硬質塩化ビニル管等の貫通材</p> <p>モルタル等による穴埋</p> <p>防火区画 (壁・床)</p> <p>図 9・6 配管の貫通</p>

340	問題② 解説表の②	100 万分の 10 以下	100 万分の 6 以下
	問題② 解説表の④	17℃ 以上 28℃ 以下	18℃ 以上 28℃ 以下
360	下から 1 行目		
343	下から 3 行目と 6 行目	(2016 年 4 月 6 日公布)	(2022 年 11 月 18 日公布)
	下から 5 行目と 2 行目	下請負代金の合計が 4 000 万円以上 (建築一式工事なら 6 000 万円以上)	下請負代金の合計が 4 500 万円以上 (建築一式工事なら 7 000 万円以上) ※「4 500 万円以上」は並字 (色太字でない) に変更
345	4 行目	下請契約の請負代金の額が 4 000 万円以上 (建築一式工事の場合 : 6 000 万円以上)	下請契約の請負代金の額が 4 500 万円以上 (建築一式工事の場合 : 7 000 万円以上) ※「4 500 万円以上」と「7 000 万円以上」は並字に変更
	13 行目	工事一件の請負代金の額が 3 500 万円 (当該建設工事が建築一式工事である場合にあつては 7 000 万円) 以上	工事一件の請負代金の額が 4 000 万円 (当該建設工事が建築一式工事である場合にあつては 8 000 万円) 以上 ※「4 000 万円」と「8 000 万円」以上は並字に変更
360	問題⑤ (1)	10 ppm 以下	6 ppm 以下